

Title	バンバラ語の関係節の特徴について
Author(s)	小森, 淳子
Citation	スワヒリ&アフリカ研究. 26 P.157-P.169
Issue Date	2015
Text Version	publisher
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/72975">https://doi.org/10.18910/72975</a>
DOI	10.18910/72975
rights	
Note	

***Osaka University Knowledge Archive : OUKA***

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

## バンバラ語の関係節の特徴について\*

小森 淳子

### 0. はじめに

関係節 (relative clause) とは「名詞句の指示を限定する従属節のことで、その限定は関係節によって表される状況内における名詞句の指示対象の役割を特定することによってなされる」(Andrews 2007:206) と定義される。類型論的研究では、名詞句の主部 (head) とそれを修飾する関係節からなる構造について、さまざまな観点から議論されてきた。たとえば、主部と関係節の語順の関係 (前か後ろか)、関係節の形式 (定形か不定形か)、関係節や主節の中における主部の文法的役割や形態、そして「関係節化」(relativization) を受ける名詞句の階層性の問題などについてである (Keenan & Comrie 1977, Comrie 1981)。

バンバラ語 (ニジェール・コンゴ語族, マンデ語派) は、類型論的な研究の中で、主部が関係節の中に残る「主部内在型」タイプ (internal-head type of relative clause) と紹介されている (Comrie 1981:138)。Comrie は (1) のような、主部がもとの位置に残ったままの関係節の例を挙げている。[ ] 内が関係節であるが、主部 so「家」が関係節の中に留まり、前後に移動していないことが分かる (表記は原文まま。本稿での表記やグロスとは異なる)。

(1) Tyε      be            [ n   ye      so   mìn   ye ]   dyɔ.  
man the   PRESENT   I   PAST   house      see      build

'The man is building the house that I saw'

Comrie (1981:138)

関係節と主節の関係を見てみると、(1) では関係節が主節の目的語の位置に埋め込まれている。この例は Bird (1969) からの引用であるが、実際のところ現在のバンバラ語では、関係節が主節の中に埋め込まれることはなく、下の (1)' のように関係節は主節の前に置かれ、主節の中にはその関係節を指示する代名詞 (d) がくるのが普通である。

---

\* 本稿は、2014 年度科学研究費補助金 基盤研究(C)「ニジェール・コンゴ語族における動詞構造と統語に関する類型論的研究」(課題番号 25370477, 研究代表者 小森淳子) による研究の成果の一部である。

(1)' [n ye so mìn ye], tye be ò dyɔ.  
 I PAST house see man the PRESENT build  
 'The man is building the house that I saw'

Bird自身もバンバラ語話者は関係節を前置して、主節の中に代名詞をおく構文を好むと述べている (Bird 1969: 42)。また、バンバラ語に関する他の文献<sup>1)</sup>でも関係節が前置された形式しか紹介されておらず、本稿の調査協力者<sup>2)</sup>も関係節が主節の中に埋め込まれた形式は不可だと述べている。本稿ではバンバラ語の関係節について、その形式をより正確に記述し、どのような特徴をもつものであるかを検討していく。

### 1. 関係節の内部構造<sup>3)</sup>

バンバラ語の基本語順は、S (主語) A (助動詞) O (目的語) V (動詞) PP (後置詞句) である (Kastenholz 2003) が、一般的な叙述文に現れるSやO、PP内の名詞句であれば、どの名詞句も関係節の主部になることができる。主部は関係詞mín (複数形はmín-w<sup>4)</sup>) によって標示される。mínは主部となる名詞句の後ろにおかれるが、主部の名詞句は関係節の中から抜き出されず、その位置にとどまる。つまり、一般的な叙述文の語順のまま、いずれかの名詞句がmínでマークされた形式が関係節となるのである。

下の(2)は、主語、目的語、後置詞句の名詞をもつ叙述文であるが、それぞれの名詞を主部にした関係節を作ることができる。それぞれの名詞が主部になっている3通りの関係節を(3)に示す。

<sup>1)</sup> Bird & Kanté (1976), Bird et al. (1977), Fonana & Traoré (2003), Kastenholz (1998)。

<sup>2)</sup> 本稿のバンバラ語については神戸大学に留学中のマリ人、マカン・サコ氏 (20歳代、男性) に調査協力してもらった。サコ氏はマリのバマコ出身でバンバラ語とフランス語のバイリンガルである。本稿の例文は、上記のバンバラ語に関する文献および小森 (2014)、清水 (1992) からの引用やそれをもとに作成したものをサコ氏にチェックしてもらったものである。

<sup>3)</sup> 本稿でのバンバラ語の表記は以下の通りである。

口母音 i, e, ε, a, ɔ, o, u (口母音にはそれぞれ長母音があり、同じ母音を2つ並べて表わす)

鼻母音 in [ĩ], en [ẽ], ɛn [ɛ̃], an [ã], ɔn [ɔ̃], on [õ], un [ũ]

子音 b, c [ʧ], d, f, g, h, j [dʒ], k, l, m, n, ɲ, p, r, s, ʃ, t, w, y [j], z

語単位でHかLのトーンをもつので、初頭の音節にH(´)かL(`)がマークされる(合成語の場合には複数のトーンがマークされることもある)。

<sup>4)</sup> -wは複数接尾辞で名詞に付いて複数形を表す標識であるが、名詞の後ろに修飾語や関係詞がくる場合は、-wは名詞にではなく修飾語や関係詞につく。mínwはmínnuやmínuと発音されることがあり、そのように表記されることもある。

(2) cè yé nègeso dí dén mà  
男 PF 自転車 与える 子ども PP~に  
「男が子供に自転車を与えた」

(3)a. cè mín yé nègeso dí dén mà  
男 REL PF 自転車 与える 子ども PP~に  
「子どもに自転車を与えた男」

b. cè yé nègeso mín dí dén mà  
男 PF 自転車 REL 与える 子ども PP~に  
「男が子供に与えた自転車」

c. cè yé nègeso dí dén mín mà  
男 PF 自転車 与える 子ども REL PP~に  
「男が自転車を与えた子ども」

その他のバンバラ語の関係節の例をあげる。以下は叙述文の主語が主部になっている例である。

(4) mùso mín bé fini féere  
女 REL IPF 服 売る  
「服を売っている女」

(5) mùso mín-w tùn fúru-la sálon <sup>5)</sup>  
女 REL-PL ANT 結婚する-PF 去年  
「去年結婚した女たち」

(6) báarakela mín-w bòli-la  
労働者 REL-PL 逃げる-PF  
「逃げた労働者たち」

---

<sup>5)</sup> 「完了」(PF)の助動詞は、他動詞の場合は yé で、基本語順通り SAOV の A の位置に現れるが、自動詞の場合は -ra で、動詞の後ろにつく。-ra は動詞によって音韻変化する。鼻音をもつ動詞では -na, l, r をもつ動詞では -la になる。例: taa 「行く」 > taa-ra 「行った」, kuma 「話す」 > kuma-na 「話した」, furu 「結婚する」 > furu-la 「結婚した」, boli 「走る/逃げる」 > boli-la 「走った/逃げた」。  
また、A のスロットには「過去」(ANT)を表す補助詞 tùn が入り得るが、補助詞は必ず助動詞と共起しなければならない、単独では現れない。

次の例文は叙述文の目的語が主部になっている例である。

- (7) *ń yé mùso mín yé*  
1s PF 女 REL 見る  
「私が見た女」
- (8) *dònso yé màrifa mín sà*  
狩人 PF 銃 REL 買う  
「狩人が買った銃」
- (9) *à yé jíribolo jálan mín kári*  
3s PF 枝 乾いた REL 折る  
「彼(女)が折った乾いた枝」

下の例は、後置詞句内の名詞が主部になっている例である。

- (10) *ń kúma-na cè mín fê*  
1s 話す-PF 男 REL PP~と  
「私が話していた男」
- (11) *wùlu bé tàbali mín kóro*  
犬 PRES 机 REL PP~の下  
「犬がその下にいる机」
- (12) *à táa-ra sùgu mín ná*  
3s 行く-PF 市場 REL PP~へ  
「彼(女)が行った市場」

最後に、所有者を表す名詞の例を見ておく。バンバラ語では一般に名詞と修飾語の語順は、名詞 — 修飾語であるが、所有者と所有物の場合は、所有者 — 所有物である。また、所有物が譲渡可能物である場合には、二つの語の間に所有詞 *ká* がおかれるが、譲渡不可物(身体部位や親族関係を表わす名詞) の場合は何もおかれない。

- (13)a. *mùso ká wári* (譲渡可能物) 「女のお金」  
女 POSS お金
- b. *mùso bólo* (譲渡不可物) 「女の腕」  
女 腕

所有者を表す名詞をもつ叙述文と、所有者が関係節の主部になっている例をあげる。(14), (15) は所有される物が譲渡可能物の例である。

(14)a. sènekɛla ká sò bòli-la  
農民 POSS 馬 逃げる-PF

「農民の馬が逃げた」

b. sènekɛla mín ká sò bòli-la  
農民 REL POSS 馬 逃げる-PF

「馬が逃げた農民」

(15)a. cè ká móbili yé jéman yé<sup>6)</sup>  
男 POSS 車 COP 白い COP

「男の車は白い」

b. cè mín ká móbili yé jéman yé  
男 REL POSS 車 COP 白い COP

「車が白い男」

下の (16) , (17) は所有される物が譲渡不可物の例である。

(16)a. kàlanden hákili ká dí  
学生 思考 PRED 良い

「学生の頭はいい (学生は賢い)」

b. kàlanden mín hákili ká dí  
学生 REL 思考 PRED 良い

「頭がいい学生」

(17)a. cè fà yé dǝgɔɔrɔ yé  
男 父 COP 医者 COP

「男の父親は医者である」

---

<sup>6)</sup> 「AはBである」というような同定を表すコピュラ文は、「同定」を表す助動詞 yé (COP) を「B」にあたる名詞句の前後において表す。

- b. cè mín fà yé dógótó yé  
 男 REL 父 COP 医者 COP  
 「父親が医者である男」

以上みてきたどの関係節の例文においても，叙述文の語順のまま，主部となる名詞句の後ろに関係詞 *mín* がおかれていることが分かる。主部を前後に移動させず，関係詞によってのみマークすることで関係節が作られているのである。

バンバラ語の関係節は，以上のように，叙述文の中に現れる名詞を関係詞でマークして作られているが，もとになる叙述文には現れない名詞が主部になる関係節も見られる。主部となる名詞が *yóro* 「場所」や *tùma/wágati* 「時間」，*cógo* 「方法，様態」などの名詞の場合である。これらの主部を持つ場合，英語の関係詞 *where* や *when*, *how* が作るような副詞的な関係節を作ることになる。以下にそれぞれの例をあげる。

主部が *yóro* 「場所」の例：

- (18) í tùn bé yóro mín ná kúnun  
 2s ANT PRES 場所 REL PP～に 昨日  
 「あなたが昨日いた場所」

- (19) í tàa-ra yóro mín ná  
 2s 行く-PF 場所 REL PP～に  
 「あなたが行った場所」

主部が *tùma/wágati* 「時間」の例：

- (20) òlu tùn bé yèn tùma mín ná  
 3pl ANT PRES そこ 時間 REL PP～に  
 「彼らがそこにいた時」

- (21) à bìn-na wágati mín ná  
 3s 落ちる-PF 時間 REL PP～に  
 「彼(女)が落ちた時」

主部が *cógo* 「方法，様態」の例：

(22) í yé à ké cógo mín ná  
2s PF 3s する 様態 REL PP~に  
「あなたがそれを行った様に」

(23) à yé à fí cógo mín ná  
3s PF 3s 言う 様態 REL PP~に  
「彼(女)がそう言った様に」

以上の関係節では、もとの叙述文には現れない「場所」や「時間」、「様態」などの名詞が主部となっている。

また、主部名詞が現れず、関係詞のみが現れる場合もある。いわゆる "headless relative clause" という形式になるが、普通は主部が「人」や「もの」、「こと」などを表わす場合に、このような形式が可能である。下の例では目的語にあたる部分に関係詞のみが現れている。

(24) í yé mín dún  
2s PF REL 食べる  
「あなたが食べたもの」

(25) Sédu yé mín fúru  
セドゥ PF REL 結婚する  
「セドゥが結婚した人」

次の例は、それぞれ主語と後置詞句内に関係詞のみが現れ、「人」を表している。

(26) mín yé tábalen gòsi  
REL PF 大太鼓 叩く  
「大太鼓を叩いた人」

(27) í yé wári dí mín mà  
1s PF お金 与える REL PP~に  
「私がお金をあげた人」

以上がバンバラ語における関係節の形式である。典型的には「主部内在型」と呼ばれる形式で、主部が文中のそのままの位置で関係詞によってマークされることによって、関係



節が形成されている。また、主部名詞を伴わず関係詞自体が主部になることも可能である。次に、関係節が主節のなかでどのように現れるかをみていく。

## 2. 主節における関係節の現れ方

関係節全体は主部を中心とする名詞として機能するものであり、名詞は一般に主節の中で主語や目的語などの位置に現れ得るが、「はじめに」で述べたように、バンバラ語の関係節はそれ自体が主節の中に現れることはなく、関係節と照応する代名詞が主節の中に現れる形式になる。主節の中に現れる代名詞は ò "that", 複数の場合は3人称複数の代名詞 òlu "those, they" である。関係節は主節の前にくる。関係節が、主節の主語にあたる例をみてみよう。

(28) mùso mín bé fini féere, ò yé ní bá yé

女 REL IPF 服 売る that COP 1s 母 COP

「服を売っている女の人は私の母だ」

(29) kàlanden mín-w hákili ká dí, òlu béé táa-ra kàlansoba lá

学生 REL-PL 思考 PRED 良い they 全部 行く-PF 大学 PP~へ

「頭がいい学生たちはみんな大学へ行った」

(28) では主部 mùso 「女」を含む関係節を受ける形で、主節の主語の位置に ò が現れている。ò は既出事項を指示する代名詞で、名詞の前に来て ò móbili 「その車」のような名詞句を作ることにも可能である。òlu は関係節の主部が複数の場合に ò の代わりに用いられるが、3人称複数の独立代名詞「彼ら、それら」としても用いられる代名詞である。

次の例は、関係節が主節の主語 (tógó 「名前」) の所有者に照応している例である。

(30) mùso mín bé fini féere, ò tógó yé Mámú yé

女 REL IPF 服 売る that 名前 COP マム COP

「服を売っている女の人の名前はマムだ」

関係節が主節の中の目的語に照応する例を以下にあげる。以下の例では、主節の中の目的語の位置に ò が現れていることが分かる。

- (31) mùso mín bé fini féere, n té ò dón  
 女 REL IPF 服 売る 1s IPF.NG that 知る  
 「私は服を売っている女の人を知らない」
- (32) à yé jíribolo jálan mín kári, à yé ò cì  
 3s PF 枝 乾いた REL 折る 3s PF that 切る  
 「彼女は折った乾いた枝を切った」
- (33) mín yé tábalen gòsi, màsake yé ò wéle  
 REL PF 大太鼓 叩く 王様 PF that 呼ぶ  
 「王様は大太鼓を叩いた人を呼んだ」

照応する代名詞が名詞を伴うこともある。(31) は以下のように言うことも可能である。

- (31)' mùso mín bé fini féere, n té ò mùso dón  
 女 REL IPF 服 売る 1a IPF.NEG that 女 知る  
 「私は服を売っている女の人を知らない」

また、主節の中に照応する代名詞が現れない場合もある。主節が「断定」を表わすような場合である。「Aである」というような「断定」を表す文は、「断定」の助動詞 dòn の前に「A」に当たる名詞句をおく。

- (34) mùso mín bé fini féere, Mámù dòn  
 女 REL IPF 服 売る マム ASS  
 「服を売っている女の人にはマムだ」

上の(34)では関係節と主節の間に統語的な関係づけは見られない。関係節がトピックとして提示され、主節でそれを「マムである」と受けて断定する文となっている。

前節でみたような、主部が「場所」や「時間」、「方法、様態」などの名詞である場合、主節では、それぞれの名詞に ò がつく形で現れるか、それらの代わりに yèn「そこに」や tèn「そのように」のような副詞的な語句が用いられることも可能である。下の(35)は主部が「場所」を表す関係節をもつ例である。

- (35)a. í tòn bé yóro mín ná kúnun, ánw tòn bé ò yóro lá  
 2s ANT PRES 場所 REL PP~に 昨日 1pl ANT PRES that 場所 PP~に
- b. í tòn bé yóro mín ná kúnun, ánw tòn bé yèn  
 2s ANT PRES 場所 REL PP~に 昨日 1pl ANT PRES そこ
- 「あなたが昨日いた場所に、私たちはいた。」

上の (35a) の主節内には、関係節と照応した ò yóro lá 「その場所に」という語句がみられる。(35b) ではその部分が yèn 「そこ」で表されているが、どちらも同じ意味を表す。

次の (36) は主部が「方法、様態」を表わす関係節をもつ例であるが、同じく主節内では関係節と照応する形で ò cógo lá 「そのように」と、それに代わる tèn 「そのように」という語がみられる。

- (36)a. í yé à ké cógo mín ná, ánw yé à ké ò cógo lá  
 2s PF 3s する 様態 REL PP~に 1pl PF 3s する that 様態 PP~に
- b. í yé à ké cógo mín ná, ánw yé à ké tèn  
 2s PF 3s する 様態 REL PP~に 1pl PF 3s する そのように
- 「あなたがそれをやった様に、私たちはそれをやった」

主部が「時間」を表わす関係節をもつ場合は、下の (37a) のように、主節では ò wágati lá 「その時に」と現れるが、「その時」を表わす語句はないので、(37b) のように、何も現れない場合も可能である。

- (37)a. à bìn-na wágati mín ná, ní tòn té yèn ò wágati lá  
 3s 落ちる-PF 時間 REL PP~に 1s ANT NEG そこ that 時間 PP~に
- b. à bìn-na wágati mín ná, ní tòn té yèn  
 3s 落ちる-PF 時間 REL PP~に 1s ANT NEG そこ
- 「彼(女)が落ちた時、私はそこにいなかった」

以上が、関係節と主節の統語的な関係である。基本的には関係節は主節の前に現れ、主節の中に、それに照応する要素が現れて関係節と主節の関係が示される。

バンバラ語の関係節には、主節の後ろにきて、主節の中の名詞句について説明を加えるはたらきをする関係節も見られるようである (Bird & Kanté 1976, Kastenholz 1998)。一般に、“non-restrictive relative clause” (非限定的関係節) や “appositional relative clause” (並列的関係節) と呼ばれるもので、例えば英語の “Fred, who had arrived yesterday, left this morning.” のような例で、前に出てきた名詞 (この場合は“Fred”) についての説明を後ろの関係節が加える構文である。文献に挙げられているバンバラ語の例を以下にあげる。

(38) *n̄ yé Fanta yé, Baba yé mín fúru*

1s PF ファンタ 見る ババ PF REL 結婚する

“I saw Fanta, the one that Baba married.”

「私はファンタを見た、ババと結婚したファンタを」 (Bird & Kanté 1976: 130)

(39) *dònso yé màrifa sà̀n, mín sò̀ngò tùn ká gè̀lèn*

狩人 PF 銃 買う REL 値段 ANT PRED 高価

“Das Jäger kaufte ein Gewehr, das teuer war.”

「狩人は銃を買ったが、その値段は高かった」 (Kastenholz 1998: 171)

これらの例では、関係詞 *mín* は主部名詞を伴っておらず、主節内のどの名詞を指示しているかは、形態的な表示はなく文脈から判断されている。

またこの構文では、関係節によって説明が加えられている主節の名詞は、新情報として提示されている。(39) の例をみると、主節の「銃」(*màrifa*) がドイツ語訳で不定冠詞のついた形 (“ein Gewehr”) になっていることからそれが分かる。このことは、同じ事象を表す関係節でも、主節の前に関係節がきて主部名詞をマークしている場合と比べると、その違いが明らかになる。(39) と比較しながら (40) を見てみよう。

(40) *dònso yé màrifa mín sà̀n, ò̀ sò̀ngò tùn ká gè̀lèn*

狩人 PF 銃 REL 買う that 値段 ANT PRED 高価

“Das Gewehr, das der Jäger kaufte, war teuer.”

「狩人が購入した銃は値段が高かった」 (Kastenholz 1998: 170)

(40) では関係節内の「銃」(màrifá) はドイツ語訳で定冠詞のついた形 (“das Gewehr”) となっているように、既知の情報として提示されている。また、主節内においても既知の情報を示すòがそれと照応している。このように関係節が前置される場合と、(38) , (39) のような関係節では、主部名詞の定・不定や、情報提示の仕方が異なっていると見える<sup>7)</sup>。

### 3. まとめ

以上、バンバラ語の関係節の特徴についてみてきた。関係節の特徴としては、基本的には「主部内在型」で、関係詞 mín によってマークされる主部名詞は、叙述文と同じ語順のまま関係節内に留まる。また、関係節全体は主節の前に置かれるが、それは主部名詞を既知の情報として提示しているためだと考えられる。既知情報として提示された主部名詞を、主節の中で同じく既知情報を指示する指示詞 (ò, òlu) が受けており、そのため主節の中に関係節全体が埋め込まれることはない。

「非限定的関係節」と呼ばれる構文については文献からの紹介に留めたが、これについては今後の調査と分析が必要である。バンバラ語の関係節はこの点も含めて情報構造とも関係しており、他の情報構造の分析と合わせて検討していく必要があると考えられる。

略号：	ANT 過去（補助詞）	ASS 断定	COP 同定
	IPF 未完了	NEG 否定	PF 完了
	PL 複数接尾辞	POSS 所有詞	PP 後置詞
	PRED 叙述	PRES 存在	REL 関係詞
	1s 1人称単数代名詞		
	2s 2人称単数代名詞		
	3s 3人称単数代名詞		
	1pl 1人称複数代名詞		
	3pl 3人称複数代名詞		

<sup>7)</sup> ただし、(37) , (38) のような構文についてはこれ以上のことは今のところ分からず、今後の調査が必要である。上記の文献以外ではこの構文についての記述は見られず、また調査協力者も、この構文については、「聞けば意味は分かるが使わない」と述べており、実際にどのような使われ方をしているのか、さらに調査し、検討しなければならない課題である。

## 参考文献

- Andrews, Avery. D. 2007. "Relative Clauses", in Timothy Shopen (ed.) *Language Typology and Syntactic Description Volume 2: Complex Constructions* (2<sup>nd</sup> ed.), Cambridge University Press, pp.206-236.
- Bird, Charles. 1968. "Relative Clause in Bambara", *The Journal of West African Languages*, 5 (1), 35-47.
- Bird, Charles & Mamadou Kanté. 1976. *An Ka Bamanankan Kalan: Intermediate Bambara*, Indiana University Linguistics Club.
- Bird, Charles & John Hutchinson & Mamadou Kanté. 1977. *An Ka Bamanankan Kalan: Introductory Bambara*, Indiana University Linguistics Club.
- Comrie, Bernard. 1981. *Language Universals and Linguistic Typology*, Oxford: Basil Blackwell.
- Fonana, Amadou Tidiane & Mamery Traoré. 2003. *Bamanankan Learners' Reference Grammar*, National African Language Resource Center, University of Wisconsin- Madison, Global Academic Publishing.
- Kastenholz, Raimund. 1998. *Grundkurs Bambara (Manding) mit Texten*, Köln: R.Köppe.
- \_\_\_\_\_ 2003. "Auxiliaries, grammaticalization, and word order in Mande", *Journal of African Languages and Linguistics*, 24-1, 31-53.
- Keenan, Edward & Bernard Comrie. 1977. "Noun Phrase Accessibility Hierarchy and Universal Grammar", *Linguistic Inquiry* 8, 63-99.
- 小森淳子. 2014. 「バンバラ語の「形容詞」の特徴について」, 『スワヒリ&アフリカ研究』 25, 130-144.
- 清水紀佳. 1992. 「マンデ語」, 『言語学大辞典』 第3巻, 東京:三省堂, pp.217-230.